

関係者評価実施日
2026 年 6 月 1 日

2025 年度
学校関係者評価委員会 報告書

社会医療法人 同心会
フィオーレ KOGA 看護専門学校

2025 年度 学校関係者評価委員会
2026 年 6 月 1 日(月)

次 第

- 1) 開会
- 2) 校長挨拶
- 3) 委員紹介
- 4) 資料確認
- 5) 学校概要説明
- 6) 2025 年度 学校評価(自己点検評価)報告
- 7) 討議・意見交換
- 8) 講評
- 9) その他
- 10) 閉会

委員名簿

	関係機関・団体・企業	職名	氏名
1	学識経験者(元 九州保健福祉大学学長)		迫田 隅男
2	社会医療法人 同心会	理事長	古賀 倫太郎
3	古賀総合病院	名誉院長	今村 卓郎
4	古賀総合病院	院長	石川 哲憲
5	社会医療法人 同心会	理事	関 孝
6	社会医療法人 同心会	統括看護部長	和泉 貴子
7	社会医療法人 同心会	事務長	後藤 雅彰
8	フィオーレ KOGA 看護専門学校	校長	古賀 和美
9	フィオーレ KOGA 看護専門学校	副校長	園田 清美
10	フィオーレ KOGA 看護専門学校	教務主任	日高 奈緒子
11	フィオーレ KOGA 看護専門学校	総務室長	関屋 康人

◆教育理念

本校における看護基礎教育のねらいは、社会に貢献し得る豊かな人間性と看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された人間として理解し、あらゆる健康レベルに応じた健康の問題を科学的根拠に基づき計画的に看護実践する基礎能力を養う。また他職種と連携、協働し、保健・医療・福祉チームの一員として地域医療に貢献できる看護師の育成を目指すものであり、使命感を持ち将来像を描き得る人材育成を基本理念とする。

◆教育目的

看護師として必要な基礎的知識および技術、態度を習得し、生命の尊厳と倫理観に基づいた豊かな人間性を養い、地域の保健・医療・福祉活動に貢献でき、専門職業人として自ら学び続ける看護師を育成する。

◆教育目標

1. 看護の対象である人間を尊重し、身体的・精神的・社会的に統合された人間として理解できる能力を養う。
2. 看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得し、健康レベルに応じた問題を科学的根拠に基づき、計画的に看護実践できる基礎能力を養う。
3. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割及び他職種の役割を理解し、地域に根ざした保健・医療・福祉活動ができる基礎的能力を養う。
4. 質の高い看護実践ができるように看護の本質を迫り、最新知識・技術を自ら研鑽し続ける態度と生命の尊厳と倫理観に基づいた豊かな人間性を養う。

◆アドミッション・ポリシー

1. 自ら看護職になろうとする強い意志を持ち、目標に向かって努力できる人
2. 他人の意見を素直に聞き入れ思いやる気持ちをもって人とかかわることができる人
3. 社会の常識やマナーを身につけ責任ある行動がとれる人
4. 心身ともに健康な人
5. 看護学を学習する上で必要な基礎的学力を有している人
6. 常に向上心を持ち、地域社会に貢献する意欲のある人

◆ディプロマ・ポリシー

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解できる
2. 命を尊び、個人を尊重した態度と思いやりの心を持って対象に関わることができる
3. 倫理に基づいた責任ある行動がとれる
4. 看護の専門的知識を活用して科学的根拠と倫理に基づいた思考・判断ができ、安全な技術を用いて看護を実践できる基礎的能力を持つことができる
5. 保健・医療・福祉制度と多職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力をもつことができる
6. 設置主体が地域の中で果たしてきた役割を理解し、伝統を受け継ぎ地域を基に広く社会に貢献できる基礎的能力をもつことができる
7. 看護を探究する姿勢と向上心を持ち、人間としての自己成長を目指して自ら学び続ける姿勢を持つことができる

2025年度 学校関係者評価報告

評価点：5. 良い 4. やや良い 3. 普通 2. やや不十分 1. 不十分

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅰ 学校経営	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。	3	3	3.5
	2	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。	3	4	
	3	学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。	3	3	
	4	管理職のリーダーシップのもと、各担当者がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっている。	3	4	
〈報告〉 ・全教職員には学科会議で組織目標の評価・結果を報告し資料等の回覧で周知している。 ・2025年度評価から、同法人中期計画（2026年度～2028年度）基本方針Ⅰ～Ⅵの具体案を検討中である。 ・ホームページでの公表ができていない。「高等教育の修学支援制度対象校」の認可を受けるにあたり、評価結果の公表は必須要件となる為、2026年度前期中にホームページ上で公表予定。					

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅱ 教育課程 ・ 教育活動	5	卒業時において持つべき看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。	5	5	4.3
	6	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。	5	5	
	7	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。	4	4	
	8	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。	4	4	
	9	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。	4	4	
	10	学生の単位取得におけた支援を実施しているか。	4	4	
	11	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。	3	3	
	12	実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	4	4	
	13	学生に修了認定のための評価基準と方法 を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。	4	5	
	14	実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。	4	5	
15	実習時のインシデント・アクシデント等を分析し、学生指導に生かしているか。	5	5		
16	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。	4	4		
〈報告〉 ・教育目標に対しての到達度に関しては、3学年とも、前期・後期・学年末総括と分け、教育目標到達度や課題を会議で共有している。 ・今日課外活動については、学生の教養を高める内容を中心に独自性を取り入れた内容を盛り込み学習支援に繋げている。さらに、県内で課題となっている「子宮頸がん受診率の低下」への啓蒙活動の1つとして、自主的に受診を行うよう働きかけ、受診率向上に貢献している。					

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅲ 入学・卒業対策	17	より多くの応募者を確保することに努めているか。	4	5	4.6
	18	国試の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。	4	4	
	19	質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っているか。	4	5	
	20	卒業生への支援を行っているか	3	5	
	21	卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。	4	4	

〈報告〉

・2025年度入学者は、定員を超える43名の入学者。但し、今後も大学志向、少子化は続き定員割れが予想される、学生確保の為の継続的な対策が必要。オープンキャンパス等は、土・日曜・祝日に開催し保護者の方の参加も受け入れている。時期についても各高校の行事等の状況をふまえて協議し開催日を決めている。

・広報担当教職員による定期的会議を開催し、学生募集に関する対策や訪問活動の報告をふまえて協議を行った。

・指定校推薦枠の見直し（追加・廃止・人数の増減）

・推薦入学試験の学校評定基準の見直し（指定校推薦の評定3.8以上→4.0以上へ）

・入学金相当額の免除制度の制定（優秀者・弟妹割）

・2027年度高等教育の修学支援制度対象校の認可申請準備

・学生寮の拡充（18→27部屋へ増、入寮者駐車場の確保）

・早期学生確保を目標に2027年度入学者の総合型選抜試験の導入を決定し準備

・国家試験対策を1年次から取り入れており、校外模試、LHRを活用した学習、臨地実習前や解剖学標本示説実習前の学習などで実践している。また、学年ごとに設けている学習係が主体的に動くよう適宜指導をしている。

・3年次では早い段階から模試の結果を参考に習熟度別の成績順位を活用するような学習支援を行っている。週末の学習対策や、適宜、保護者面談を行うことでの家族への意識付けも図っている。結果、新卒者の合格率100%達成することができた。

・学生支援ではチューター制度と学年担当制度の2つの体制をとっている。日々の学生に関する情報共有を得て、必要時は保護者面談を積極的に実施している。（成績や進級への面談だけでなく生活態度や素行面での面談を実施している）

・既卒者への国家試験対策支援では、定期的な連絡、状況確認、応援等を行っている。

・卒業生に対しては学校だよりを年1回発行し個別郵送、また、国試不合格者に対しては、卒業後1年間は面談や、学校施設利用、補講への無料参加等の支援を行っている。

・県内病院募集の来校や資料等は、最新のチラシ等を整理し所定の場所に置き、学生が自由に閲覧できるようにしている。

・県内就職率は県内の他看護系学校より高い。1期生：80%、2期生：80%、3期生：90%、4期生：92%、5期生：78%、6期生：84%。7期生：89%

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅳ 学生生活への支援	22	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。	5	5	4.5
	23	経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。	5	5	
	24	学生の身体的側面の健康確保に努めているか。	5	5	
	25	サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。	2	3	

〈報告〉

・精神的側面への支援については、学校カウンセラー相談日を定期的に設置し（3回/月）、学生の相談業務を担っている。可能な限り授業を組み入れず、3年生も帰校日に受けられるよう日程を調整している。急を要する場合は臨時実施も交渉している。

・臨地実習を行うにあたっては、学生の身体的側面の安全確保の観点からワクチン接種が重要である。現段階では「日本感染環境学会第4版」に則り1年次の健康診断で風疹や麻疹などの抗体価を測定している。入学前説明会で保護者を含めた説明を行い、古賀総合病院の看護部と連携し1年次の基礎Ⅰ実習までには予防接種が終了しておくよう指導している。感染防止の対策として、毎朝全学生の健康チェック（体温測定）は継続している。

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
V 管理運営・財政	26	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。	4	4	3.8
	27	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。	5	5	
	28	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	4	3	
	29	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。	2	3	

〈報告〉

- ・開校時からハラスメント規程があるが、2024年12月に新たに学校のハラスメントガイドラインが完成し、若干の修正をしながら、2025年4月1日より開始。
- ・学生の個人的情報に関して、教員間や実習施設とで教育上共有することが必要と判断した場合は、学生本人の許可を得て情報共有するよう心掛けている。
- ・「ご意見箱」を図書室に置き学生からの要望等を聞き改善に取り組んでいる。
- ・卒業前に学生生活の満足度、学校への要望などのアンケートを取り結果を教員に公開し、改善に努めている。
- ・授業料等（教育充実費含む）の見直しや予算の計画的事業執行の検証も行っていない為、物価高騰の状況も踏まえ、教育充実費20万円（3年間分の事前徴収額・費目）については、対象費目を再検討し、追加実費徴収への移行についても協議し予算編成が必要。
- ・学校用危機管理マニュアルの作成見直しが未実施の為、今後作成予定。
- ・災害時や感染症拡大時の際、学生の所在が把握できるよう居住地別リストを作成し活用している（毎年更新）。
- ・防災備蓄品の見直し、災害発生時（予想される時を含む）の連絡体制等のマニュアルの策定に関して再検討予定。

備蓄品（保存食、飲料水他）は、3日分程度の必要備蓄量へ補充するも管理体制が不十分の為、早急対策が必要。

- ・災害対応型自販機設置（1台）※災害時の備蓄品対応可。
- ・災害時の安否確認用学生ポータルシステムの更新と活用。（安否確認の災害基準を制定し、テストメールを連休や各期休業期間前に全学生及び教職員へ実施。
- ・県民一斉防災訓練（みやざきシェイクアウト）を各学年毎に講義中に訓練実施（事前通告せずに実施）

内容		自己評価項目	評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅵ 施設設備	30	施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。	4	4	4.0
	31	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。	4	3	
	32	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。	4	4	
	33	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	3	5	
	34	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。	4	4	
〈報告〉 ・校内の設備備品のロッカー、キャビネット等に耐震補強（突っ張り棒、連結固定 他）の設置、補強を行った。 ・1Fに貸出用の車椅子1台を配置（常備）している。 ・学務システム 運用変更（サーバ → クラウド） ・ノート型PCは学生用45台設置し、インターネット検索可。（1月 PC45台、新規購入入替作業 運用の変更） ・電子教科書対応、全教室 無線LAN（Wi-Fi） ・各種設備（講義用音響設備、ネットワーク機器、システム端末等）の不具合や故障が多発し、授業演習に支障が出ている。設備・備品等の点検・修繕・入替対応が不十分だった。					

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
Ⅶ 教 職 員 の 育 成	35	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。	3	3	3.2
	36	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。	3	4	
	37	教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。	2	3	
	38	教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。	2	3	
	39	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	3	3	

〈報告〉

・「ハラスメント」に関して、オンライン研修での案内があったこともあり、全員「ハラスメント」「医療安全」と研修を受け自己の課題を見出したのではと考える。

・公費で研修参加した教員に関しては、伝達講習を行うことを予め説明し、会議の中で行っている。（伝達講習ができない場合もあり、必ず教育報告書と研修資料を添えて全職員に回覧を行っている。）

・2024年度より専任教育成長段階到達目標（教育ラダー）を参考に本校に見合ったラダーを作成し、継続的な専任教員能力開発に活かしていきたいと考えている。現状として、教員へ資料を配布し、まずは、自分の教育経験年数から該当するラダー内容を把握してもらうよう働きかけている状況である。⇒教員面談の際に評価や各自の意見を聞いている。必要時助言を呈す。

・新人教員に関しては、「教員ラダー」に則り、他教員の協力を得ながら計画的に取り組んでいく。

・同法人から発信されている各種研修などを受けている。

・学会等での研究発表は、2023年度に1名発表。2024年度も1名取り組んでおり、2025年度に1名発表。「日本不妊カウンセリング学会誌（2026年4月号）」に掲載された。

内容	自己評価項目		評価点		
			前年度	今年度	平均点
地Ⅷ 域 広 活 報 動・	40	学校の存在を周知するため、ホームページ、モバイルサイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。	3	5	4.5
	41	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。	3	4	

〈報告〉

・Instagram：担当教員による月平均7回の投稿。フォロワー数も500件以上（1回の投稿で2,000件以上の閲覧実績）獲得。オープンキャンパス等の案内を投稿し、SNSがきっかけで参加したという学生や、学校Instagramを知っている学生もいたため、広報の効果はあったと考える。入試についての投稿をしていなかったため、次年度は、更に投稿を活用して受験者を増やしていきたい。

・献血ルームや実習病院など、互いの投稿にタグ付けするなど、他施設と連携・協力することができた。今後も地域と繋がり認知拡大を目指していきたい。

・卒業生への必要情報掲載については、ホームページ上では行っていないが、年1回「フィオーレKOGA便り」を紙面に作成し、全卒業生へ案内（郵送）している。卒業生が増えていく中で、更に宛先不明等で返送される封書も年々増。経費（郵送料・封筒代等）や事務作業の煩雑化もふまえ、次年度以降は、ホームページ上に新規ページ（卒業生へ）を追加しWeb案内へ段階的に切り替えていく。

・ボランティア担当を中心に可能な範囲で参加。※献血ルーム 街市ボランティア（共同出展）、病院の防火訓練（患者役ボランティア）、まつりえれこっちゃんみやざき（救護補助）、介護老人保健施設 納涼祭、子育て応援フェスティバル、献血ルーム 献血よびかけボランティア。

・学生・教員交えての清掃ボランティア活動を月1回計画し宮崎駅東口周辺の清掃活動継続中。

・宮崎駅周辺の清掃活動（花のまちづくり実行委員会に学校として参画）。毎月1回清掃活動に参加。

・宮崎市花いっぱい推進事業に登録し、地域の景観づくりの活動に参加。宮崎市より配布（年2回）される草花等を学校花壇等に植栽し管理を行っている。

・市内の中学生を対象に、学びの体験等を通し地元企業や学校を身近に感じてもらう体験型進学就職イベント「学校版ゆめパーク」に参画、中学校に出向き、1年生対象に実施。

・2027宮崎障スポ選手団サポーター養成協力校の受嘱。12/11 宮崎県庁にて委嘱状交付式（校長出席）

・2026年度に各学校にてサポーター養成講習予定

〈講評〉

学識経験者（元九州保健福祉大学学長） 迫田 隅男 先生

全41項目の内、評価が落ちている項目は1項目のみ、あとは改善されているということ。その認識も先生方がお持ちだと思いますので継続して頑張ってください。学生の確保と退学者を出さない取り組みが重要になってくる。対外的な活動、ホームページ、イベント等を活用して学生を確保してほしい。また学生にもアンケートを実施して、その意見を改善につなげていく、難しい場合にはしっかりと理由を説明することが大事。教員の方々の意思も改善に繋げていただきたい。